
桜日和

龍夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桜日和

【Nコード】

N9343D

【作者名】

龍夜

【あらすじ】

あの日君を見た瞬間自分の何かが変わった。「男なんて皆一緒」そう思ってたのに。ねえ、あのときの自分が今じゃ嘘みたいだよ。君と一緒にいて楽しいなんて思わなかったもの。どうか、これからも一緒にいてください。

始まり

「ひらひら
舞い落ちながら
くるくる
風と踊る
薄ピンクの花弁は
風と踊る
くるくる
ひらひら
行く先はどこかは知らない
ただ運命に身を任せるだけ」

今年も春が来たね。
何回目の春だっけ？
ああ・・・。2回目だ。
2回目の春だね。
あの日からやっと2回目の春か。
今年もよろしくね。

「止まることを
知らない時間^{とき}
風は時間^{とき}と一緒に
吹き抜ける
薄ピンクの花弁は
それにあわせて
ただ舞い落ちる

ひらひら・・・

くるくる・・・

全てがなくなるまで」

少しだけ話してあげるよ

私とあいつの出会い

あれはねそう、今と同じ春でさ。

桜の花びらが風と舞ってたんだよ。

春1話

〽4月〽

「夏絵子かえこ！起きて！」

「んゝ・・・・・・・・。」

「ほら、早く！今日は入学式でしょ？」

「分かってる・・・・・・・・ふああゝ・・・・・・・・。」

私（鳥居とりい 夏絵子）は今日中学に入学する。卒業したあとなんとなく過すごしてきた春休み。でもそれも昨日でお終はい。だって今日から中学が始まるんだもん。卒業したっていう感じは全くなかった。ただ、長いお休みがあつて今日皆に会う。そんな感じだった。でも、

「いない人もいるんだよね・・・・。」

そう。中学は違う子もいるのだ。受験というものをして他の学校に行く子達。それに、クラスも全部変わる。今までのクラスとは違う。同じ学校の人は何人かだけ。あとは他の学校の人。本当のことを言うとうと凄く心配だ。でも、しょうがない。

「夏絵子！ほら！バスに乗り遅れちゃうよ！早くしたくする！」

「はあゝい。」

小学生のときから朝はこんな感じ。私、何故かよく友達にマイペー

スって言われるんだよねえ……。ま、気にしないからいいんだけど。

そんな感じで私は中学に向かった。

「夏絵子おはよう！」

中学の校門を過ぎたところで声をかけられた。

そばにお母さんがいたけど、お母さんはそれを見て、

「私、先に体育館に行ってるからね。」

と、言って体育館に行った。

「おはよう、葵^{あおい}！」

葵^{おおば} 大場 葵は小学生のときの大親友の一人。私には大親友が2人いるんだ。なんだかうサギみたいにふわっとして優しい感じの子でも、それは外見だけで中身は色々なことはつきり言っちゃうタイプ。それで天然も入ってるんだ。もちろん優しいところもたくさんあるよ！

「今日、クラスが一緒になるといいね！」

葵は笑顔で言った。私は葵の笑顔が大好きなんだ。キラキラ光っているように見えるから。

「うん。きつとなれるよ。」

私がそういったとき、

「葵〜！夏絵子〜！」

ちょっと前で大きく手を振っている女の子がいた。

「あつ！春^{はる}だ！おい。」

そう、前の方で手を振っているのは久保^{くほ} 春菜^{はるな}だった。春も小学生のときの大親友。見た目は男の子みたいだけど、中身は女の子。いつも理想の人とか恋の話をしてくれるんだ。自分の気持ちにとっても素直な子なんだよ。私達はそんな春菜を春と呼んでいる。

「おはよう！」

春は私達のほうへ駆け寄ってきてそう言った。

「おはよう。」

「おはよう。」

私と葵はそう言い返した。

「あのさ、クラスが書いてある紙、もらってきた？？」

「ううん。もう、配られてるの？」

「うん。ウチもまだなんだ。3人でとりに行こうよ。」

「いいよ。」

そういつて私達は紙を配っている先生みたいな人のほうへ行った。

春2話

「クラスが分かった生徒は自分の教室へ移動してください！」

何処からか先生の声が聞こえたけど、私は泣きたい気分だった。

あの後私達は見ず知らずの先生にクラス表をもらい、自分の名前を探した。ゆっくり、少しずつ私は探した。でも、自分の名前が見つかる前に私は春と葵の名前を見つけた。二人は同じクラスだった。(私は?)

そう思い、そのクラス 2組の名前を順に見ていった。けど、そこに私の名前はなくて……。私は二人とは違う5組になった。

「……………行こっか。」

春が言った。きっと春は私の気持ちがあったんだと思う。

「そうだね。」

私達は昇降口から中に入った。まあ、幸いなのは下駄箱が近いっていうことと、教室が階段上がってすぐっていうこと。2組は昇降口の隣だったから、休み時間でも遊びに行けばいいや。

私は一人で階段を登り、教室に入った。私は自分の席を探し座った。確か同じクラスの女子は一人しかいなかった。え〜っと……。誰だっけ？

「夏絵子！」

私がそんなことを考えていると私を呼ぶ声が聞こえた。見てみるとそこには河内山^{こうちやま} 沙羅^{さろ}がいた。沙羅は眼鏡をかけていて、いろいろ

るなことをはつきり言っ、喧嘩をよくする女の子だった。沙羅と同じかぁ……。私と沙羅は喧嘩したこともあった。でも、そこそ仲がよくってふざけあったりしていた。

「夏絵子と一緒にのクラスかぁ……。めんどくさっ！」

沙羅はそんな風に私をよくからかうんだ。私もそれにのるんだけどね。

「それはこっちの台詞だつて。また沙羅と一緒にか……。この1年大変だな〜！」

「まあ、よろしく〜！」

沙羅がにかつと笑って言った。きっと今の話は周りが聞いたらこの二人は仲が悪いと感じるのかもしれないけど、私達にとっては普通の会話だった。

「よろしくしたくないけど、よろしく。」

「ひどっ〜！」

なんだかんだ言っ、結局私達は凄い仲がいいのかもね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9343d/>

桜日和

2011年1月20日03時10分発行